

科学部 山北町玄倉で丹沢のなりたちを極める

2018.8.26

異常気象の定義は30年に一度くらいある気象のことです。今年はその年に当たっているようで、気温が35℃以上になる猛暑が続いています。そんな中、丹沢の沢で涼みながら地質研修に参加しました。高理連（高文連の下部組織）の主催になるもので、弥栄高校の生徒さんと一緒にしました。

丹沢はその昔、本州とは離れた島だったそうで、その証拠がいくつもあります。今回はその一つである枕状溶岩の本物を見ることが出来ました。これは海底火山で噴火が起こっていたことを表すもので、まさに丹沢が海底にあったことを示しています。

川が違えば落ちている石も違う、ということも知りました。河原の石は、上流の地質を表しているのです。ある小さな川が流れ込んでいるところ（の下流）だけに、ザクロ石（ガーネット）を含んだ石（流紋岩）がありました。宝石とは言えないくらいの小さなガーネットでしたが、虫眼鏡で見るとキラキラ輝いています。顧問も感動しました。

更に貝の化石の発掘もしました。隆起によって垂直になるくらいに傾いている地層の、ある層にだけ貝の化石が大量に詰まっています。カキが多かったのですが、よく見ると巻貝も散見されます。なかなか上手にとることが出来なかったのですが、いい経験になりました。



科学部 夏の収穫

2018.8.17

初夏に植えた苗は夏休み中に収穫時を迎えました。しかしながら登校する機会があまりなかったこともあり、収穫されずに朽ちているトマトやナスやキュウリたち。お化けを収穫することにもなったわけですが、マクワウリとスイカはまさに食べごろのものがありませんでした。とんでもない今年の猛暑を避けて、午後になってから草取りをした後、美味しくいただきました。特にスイカはツルの整理をしなかったこともあるのか、1つしかありませんでしたので、それはそれは美味しい大きなものが収穫できました。夏はやはりスイカですね。



科学部 アカウミガメの保護活動を体験

2018.8.11～12

藤沢市民活動推進機構の事業「社会を知るためのワカモノ×NPO インターンシッププログラム」にインターンとして科学部部員が半年間参加しています。これはインターンシップを希望するワカモノに対して、受入団体のNPO等が約半年間で120時間～200時間の活動の受け入れを行うものです。科学部員が受け入れてもらっている団体はNPO「ゆい」なのですが、その活動の一環として、浜松でウミガメの保護活動をしている「サンクチュアリ」という団体の活動体験に行きました。その団体は何十年も朝五時から海岸のパトロールを続けているのです。その志の高さに感服しました。おかげでウミガメの上がってくる海岸は、かなり守られています。正に継続は力なり、ですね。

また、訪れた時季は毎日ウミガメの赤ちゃんが孵っているときで、放流体験もさせてもらいました。実に愛くるしかったです。無理なこととはいえ、全員無事にここに帰ってきてほしいと願ってしまいました。

